

新興プラントック株式会社 証券コード：6379

 **新興プラントック株式会社**

決算説明会資料

2019年3月期



目次

1. 2019年3月期の事業環境	3	9. 特別損益・当期純利益	11
2. 2019年3月期の業績概要	4	10. 貸借対照表	12
3. 受注高の工事種類別内訳	5	11. キャッシュ・フロー	13
4. 完成工事高の工事種類別内訳	6	12. 配当について	14
5. 受注残高	7	13. 2020年3月期の業績見通し等について	15
6. 総利益	8	14. 第6次中期計画の総括	17
7. 営業利益	9	15. JXエンジニアリング株式会社との経営統合について	25
8. 営業外損益・経常利益	10			

- 石油業界では原油価格の上昇に加え、エネルギー供給構造高度化法への対応や業界の経営統合・再編による生産設備の最適化により需給が引き締まる。
- 多くの定期修理工事やプラントの強靱化・経年化への対策工事が計画。
- 石油化学業界では、新興国の経済成長を背景として製品市況の上昇や需要も堅調に推移。
- 一般化学業界では、景気の緩やかな回復に伴い国内外での高機能製品の増産投資が堅調。
- 当社グループでは、当期（2019年3月期）は定期修理工事が端境期であった前期（2018年3月期）よりも増加。
- プラント強靱化対策工事、経年化対策や安定稼働のための改造・改修工事、高機能製品の生産のための新規プラント建設工事などの受注確保に取り組む。
- 材料費や人件費、外注加工費の上昇要因に対し、直接工事費の原価低減、経費の継続的削減などにより収益の確保に努めた。

2. 2019年3月期の業績概要（連結）

（単位：百万円）

	2018.3月期	2019.3月期	前期比	増減率
受 注 高	91,601	104,588	+12,986	+14.2%
完 成 工 事 高	89,611	97,331	+7,720	+8.6%
総 利 益	10,308	11,984	+1,675	+16.3%
（率）	11.5%	12.3%	+0.8%	-
一 般 管 理 費	3,932	4,300	+368	+9.4%
（率）	4.4%	4.4%	+0.0%	-
営 業 利 益	6,375	7,683	+1,307	+20.5%
（率）	7.1%	7.9%	+0.8%	-
経 常 利 益	6,634	7,939	+1,304	+19.7%
（率）	7.4%	8.2%	+0.8%	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,452	5,225	+773	+17.4%
（率）	5.0%	5.4%	+0.4%	-
1株当り当期純利益	96.31円	113.03円	+16.72円	+17.4%
受 注 残 高	22,607	29,993	+7,386	+32.7%

（参考）

（単位：百万円）

	期初発表値（2018.5.9発表）		修正発表値（2018.11.5発表）		
	差異	増減率	差異	増減率	
95,000	+9,588	+10.1%	100,000	+4,588	+4.6%
95,000	+2,331	+2.5%	97,000	+331	+0.3%
9,500	+2,484	+26.1%	11,000	+984	+8.9%
10.0%	+2.3%	-	11.3%	+1.0%	-
4,000	+300	+7.5%	4,000	+300	+7.5%
4.2%	+0.2%	-	4.1%	+0.3%	-
5,500	+2,183	+39.7%	7,000	+683	+9.8%
5.8%	+2.1%	-	7.2%	+0.7%	-
5,700	+2,239	+39.3%	7,300	+639	+8.8%
6.0%	+2.2%	-	7.5%	+0.7%	-
3,600	+1,625	+45.1%	4,800	+425	+8.9%
3.8%	+1.6%	-	4.9%	+0.5%	-

※上記の率は2019年3月期実績値との増減比です。

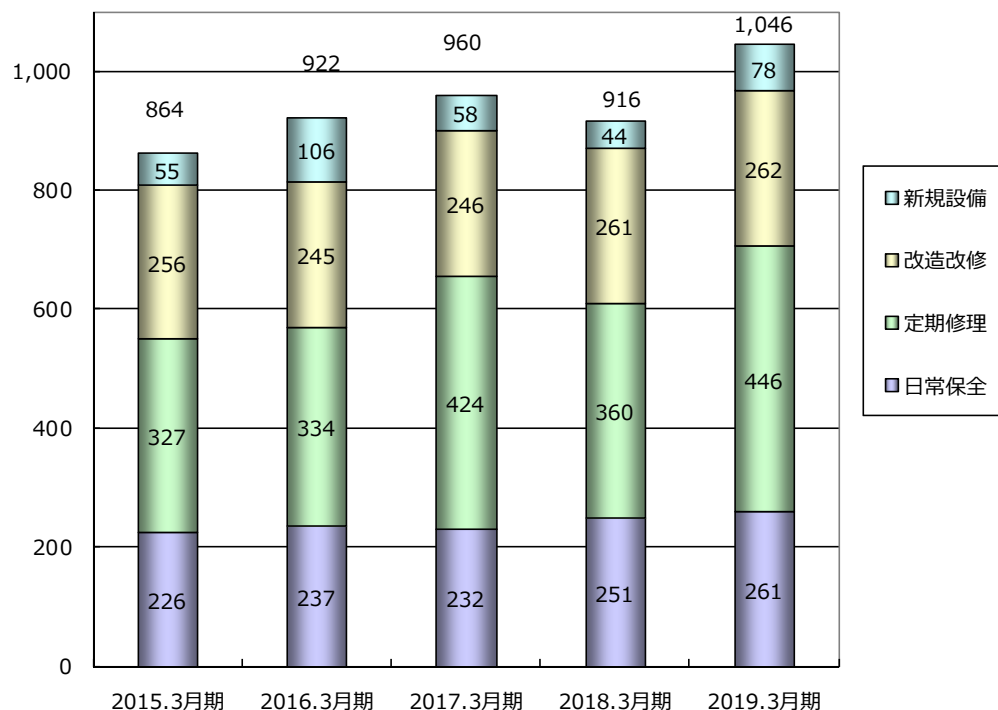
3. 受注高の工事種類別内訳（連結）

（単位：百万円）

受注高	2018.3月期	2019.3月期	前期比	増減率	11/5修正予想値	予想比	増減率
日常保全工事	25,086	26,050	+964	+3.8%	24,000	+2,050	+8.5%
定期修理工事	36,018	44,567	+8,549	+23.7%	41,000	+3,567	+8.7%
改造改修工事	26,114	26,178	+63	+0.2%	25,000	+1,178	+4.7%
新規設備工事	4,381	7,791	+3,409	+77.8%	10,000	-2,208	-22.1%
エンジニアリング業	91,601	104,588	+12,986	+14.2%	100,000	+4,588	+4.6%

（億円）

過去5年間の受注高の推移



- 受注高は前期比で129億8千万円の増加
修正予想値に対し、45億8千万円の増加

【日常保全工事】

- ① 前期比および予想比で増加。
- ② 全体的な工事量の増加と子会社の新規連結により増加。

【定期修理工事】

- ① 大型工事の件数の増加や全体的な工事量の増加により、前期比で増加。
- ② 次期の定期修理工事の成約により、予想値に比べ大幅に増加。

【改造・改修工事】

- ① 前期とほぼ同額。
- ② 高経年化・事故防止・安定稼働確保のためのプラント強靱化対策工事などの工事案件が堅調に推移し、予想値に対しては増加。

【新規設備工事】

- ① 案件の引き合いは堅調であり、前期比で増加。
- ② 次期へ受注がずれ込んだ案件があり、予想値に対しては未達。

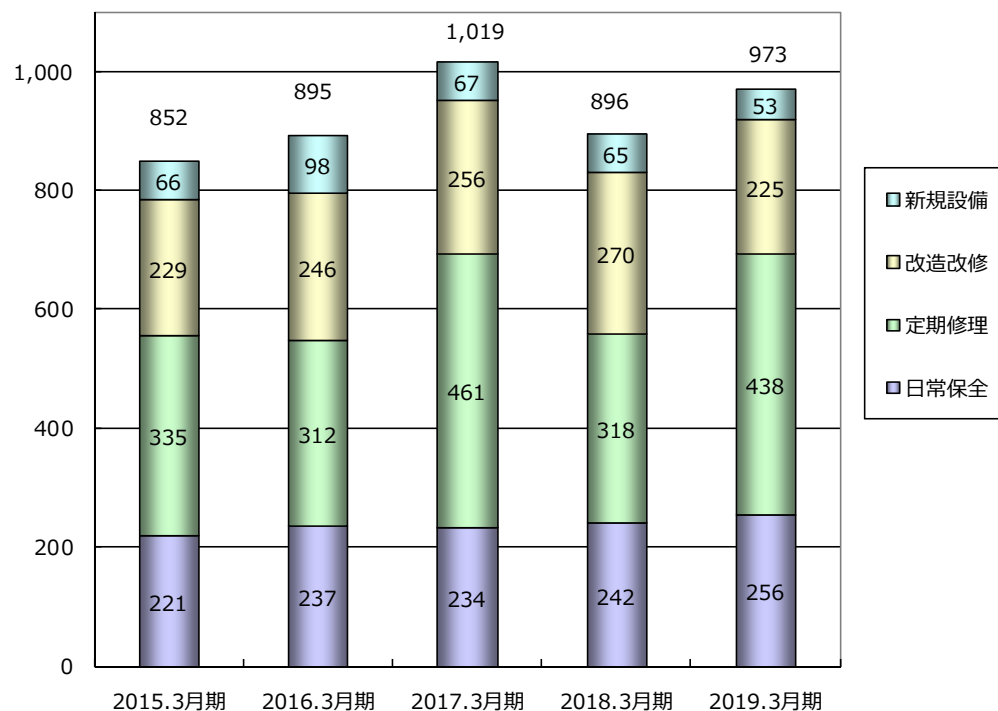
4. 完成工事高の工事種類別内訳（連結）

（単位：百万円）

完成工事高	2018.3月期	2019.3月期	前期比	増減率	11/5修正予想値	予想比	増減率
日常保全工事	24,180	25,571	+1,390	+5.8%	24,000	+1,571	+6.5%
定期修理工事	31,817	43,813	+11,996	+37.7%	41,500	+2,313	+5.6%
改造改修工事	27,011	22,476	-4,534	-16.8%	24,500	-2,023	-8.3%
新規設備工事	6,453	5,333	-1,120	-17.4%	6,800	-1,466	-21.6%
エンジニアリング業	89,463	97,195	+7,731	+8.6%	96,800	+395	+0.4%
その他事業	148	136	-11	-7.9%	200	-63	-31.7%
合計	89,611	97,331	+7,720	+8.6%	97,000	+331	+0.3%

（億円）

過去5年間の完成工事高の推移



- 完成工事高は前期比で77億2千万円の増加
修正予想値に対し、3億3千万円の増加

【日常保全工事】

- ① 前期比および予想比で増加。
- ② 全体的な工事量の増加と子会社の新規連結により増加。

【定期修理工事】

- ① 大型工事の件数の増加や全体的な工事量の増加により、前期比で増加。
- ② 想定以上の工事量の増加により予想値に対しても増加。

【改造・改修工事】

- ① 工事の完成が次期となるものが多く、前期比、予想値比で減少。
- ② 受注残高は大幅に増加。

【新規設備工事】

- ① 工事の失注および進行基準による進捗率が想定より低下したことにより、前期比で減少、予想比で未達。

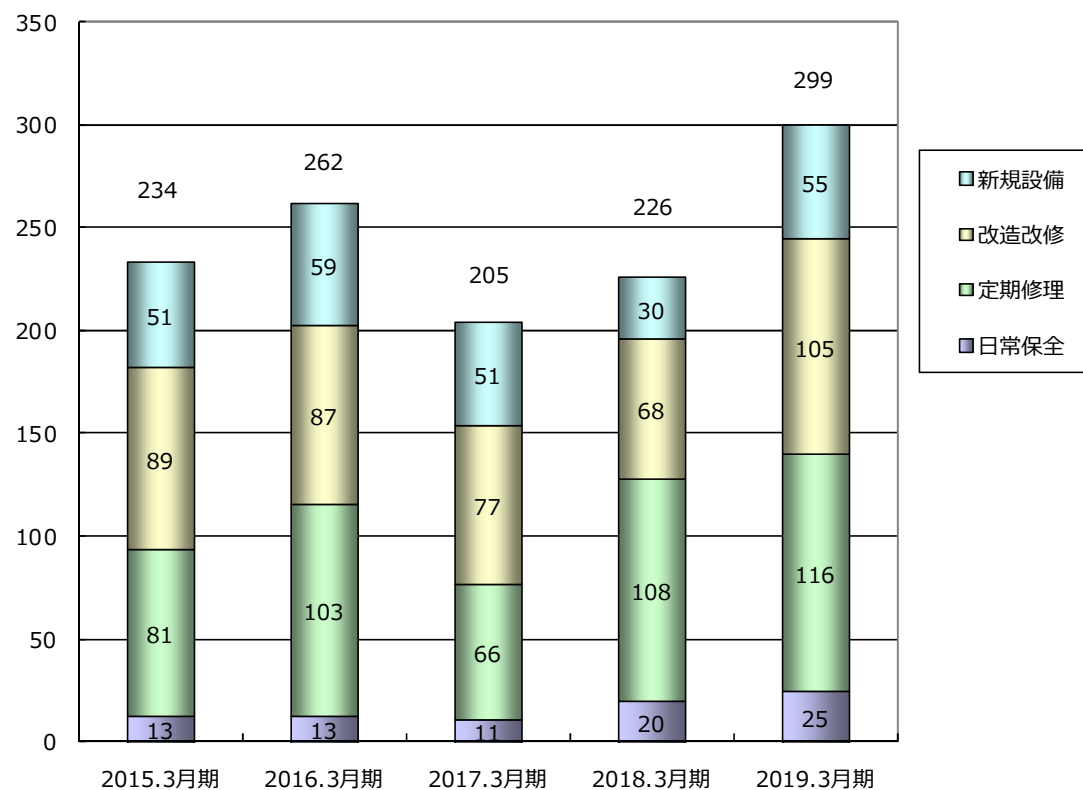
5. 受注残高（連結）

【過去5年間の受注残高の推移】

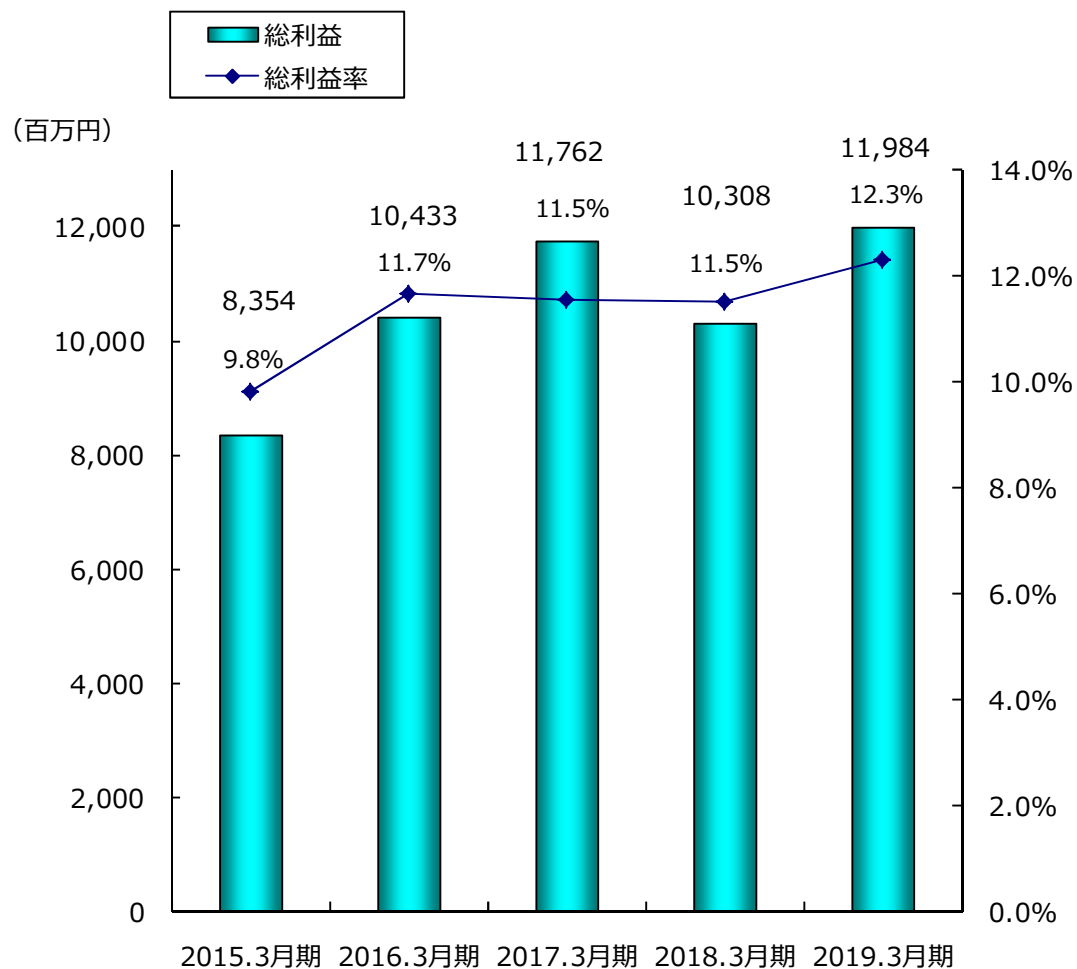
（単位：百万円）

	2015.3月期	2016.3月期	2017.3月期	2018.3月期	2019.3月期
日常保全工事	1,275	1,298	1,102	2,008	2,463
定期修理工事	8,104	10,277	6,597	10,798	11,552
改造改修工事	8,873	8,716	7,690	6,793	10,487
新規設備工事	5,118	5,916	5,078	3,006	5,490
合 計	23,373	26,209	20,469	22,607	29,993

（億円）



6. 総利益（連結）



● 総利益は119億8千万円。前期比 16.3%の増加

● 総利益率は 11.5%から12.3%へ0.8ポイント増加

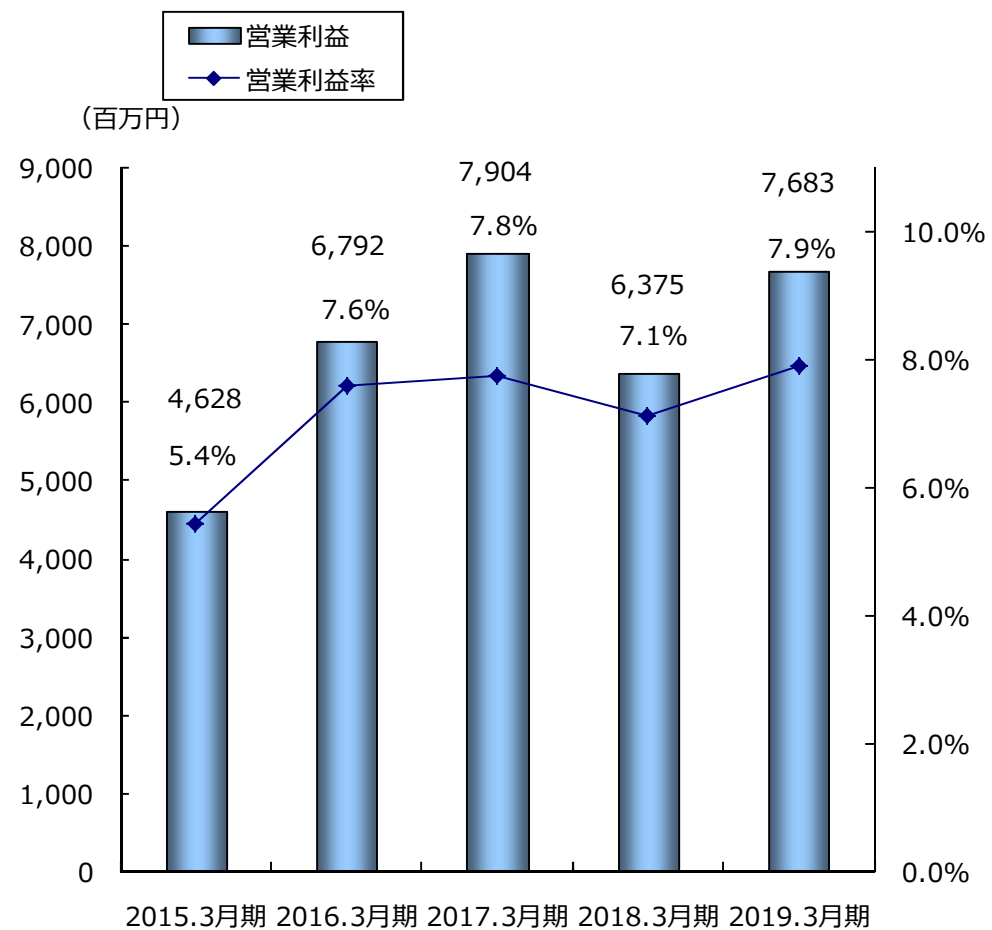
要因：

● 戦略的に受注し、収益が厳しいと想定していた定期修理工事の収益が改善

● 時間外労働の管理徹底、全体的な工事量の増加による作業効率の向上、間接コストの圧縮など、継続的なコスト低減を図り、収益を確保

● 新規連結した子会社や海外のインドネシア子会社の利益貢献

7. 営業利益（連結）



- 一般管理費は経営統合に関わる費用の増加および新規連結した子会社により増加
- 営業利益は76億8千万円。前期比20.5%の増加
- 営業利益率は7.1%から7.9%へ0.8ポイント増加

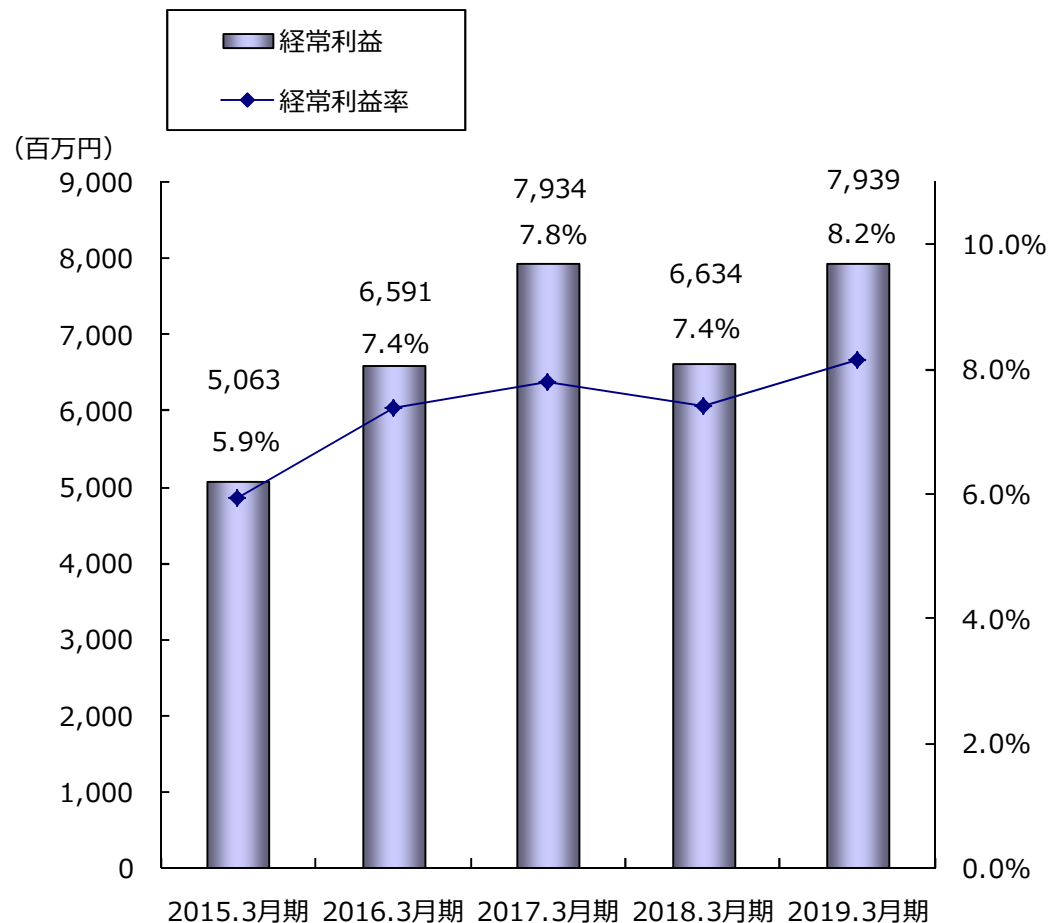
8. 営業外損益・経常利益（連結）

【営業外損益】

(単位：百万円)

	2018.3月期	2019.3月期	前期比
【営業外収益】			
受取利息	13	3	-9
受取配当金	110	130	+19
受取割引料	35	41	6
受取賃借料	115	91	-24
その他	66	42	-24
計	341	309	-32
【営業外費用】			
支払利息	17	4	-13
賃貸費用	11	10	-1
売上割引	3		-3
為替差損		8	+8
その他	49	29	-19
計	82	53	-29
【営業外損益】	+258	+255	-3

【経常利益】



- 経常利益は79億3千万円。前期比19.7%の増加
- 経常利益率は7.4%から8.2%へ0.8ポイント増加

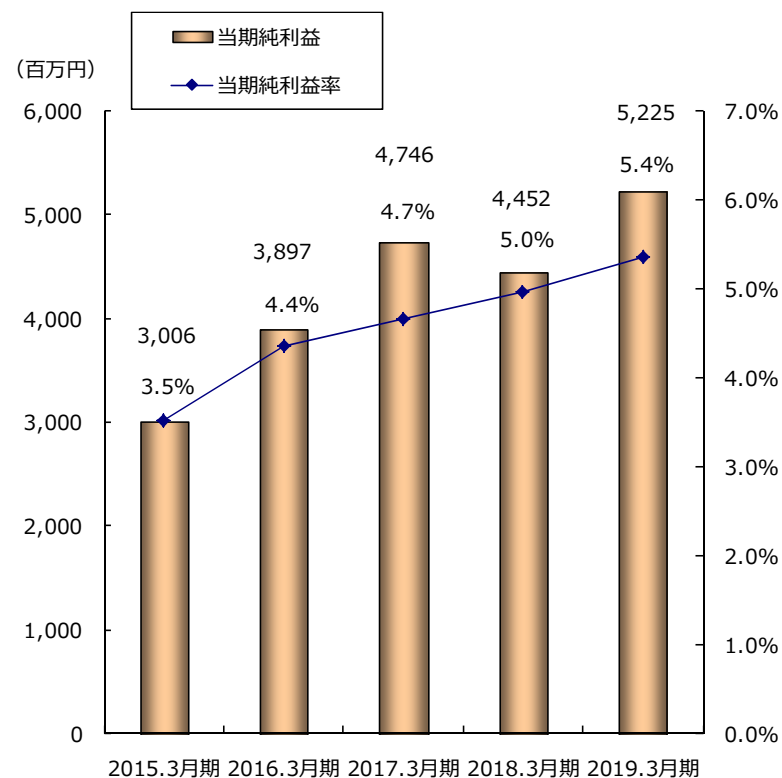
9. 特別損益・当期純利益（連結）

【特別損益】

(単位：百万円)

	2018.3月期	2019.3月期	前期比
【特別利益】			
固定資産売却益	1	1	0
計	1	1	+0
【特別損失】			
固定資産売却損	1	0	0
固定資産除却損	30	1	-28
投資有価証券評価損		89	+89
計	31	91	+59
【特別損益】	-30	-90	-59

【親会社株主に帰属する当期純利益】



- 親会社株主に帰属する当期純利益は52億2千万円。
前期比17.3%の増加
- 純利益率は5.0%から5.4%へ0.4ポイント増加

10. 貸借対照表 (連結)

(単位：百万円)

	2018.3月期		2019.3月期		増減		2018.3月期		2019.3月期		増減
	実績	構成比	実績	構成比			実績	構成比	実績	構成比	
【流動資産】	55,766	75.9%	63,007	78.6%	+7,241	【流動負債】	26,217	35.7%	29,845	37.2%	+3,628
現金預金	9,585	13.0%	16,954	21.2%	+7,369	仕入債務	22,314	30.4%	23,719	29.6%	+1,405
売上債権	39,539	53.8%	39,850	49.7%	+311	短期借入金	251	0.3%	205	0.3%	-46
未成工事支出金	6,048	8.2%	6,020	7.5%	-27	未成工事受入金	389	0.5%	535	0.7%	+146
その他	594	0.8%	182	0.2%	-411	その他	3,263	4.4%	5,385	6.7%	+2,122
【固定資産】	17,710	24.1%	17,147	21.4%	-563	【固定負債】	2,248	3.1%	2,321	2.9%	+73
有形固定資産	10,846	14.8%	11,069	13.8%	+223	長期借入金	91	0.1%	53	0.1%	-38
無形固定資産	173	0.2%	271	0.3%	+97	退職給付に係る負債	1,905	2.6%	1,984	2.5%	+79
投資その他の資産	6,691	9.1%	5,807	7.2%	-884	その他	251	0.3%	283	0.4%	+32
						【負債合計】	28,465	38.7%	32,167	40.1%	+3,701
						【純資産】	45,011	61.3%	47,988	59.9%	+2,976
						(内 非支配株主持分)	(772)	(1.1%)	(865)	(1.1%)	+92
【資産合計】	73,477	100.0%	80,155	100.0%	+6,678	【負債・純資産合計】	73,477	100.0%	80,155	100.0%	+6,678

※ 自己資本比率 (連結)

58.8%

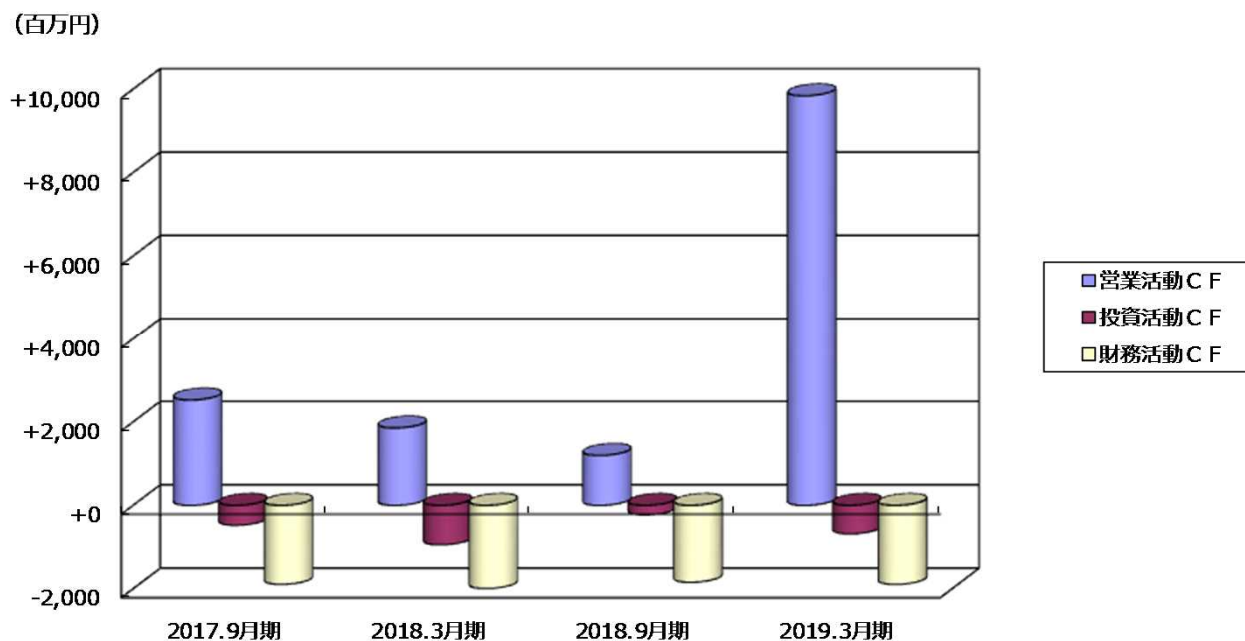
自己資本当期純利益率 (ROE・連結)

11.4%

11. キャッシュ・フロー（連結）

(単位：百万円)

	2017.9月期	2018.3月期	2018.9月期	2019.3月期
営業活動C F	+2,526	+1,856	+1,198	+9,842
投資活動C F	-476	-944	-227	-681
財務活動C F	-1,891	-1,991	-1,842	-1,893
現金及び現金同等物に係る換算差額	-7	-4	-17	-23
現金及び現金同等物の増減額	+149	-1,083	-888	+7,243



配当に関する基本方針

当社グループの事業は、石油・石油化学等のプラント関連のメンテナンスを基盤としており、民間設備投資の増減に影響され易い受注産業に属しております。このような事業の性格を踏まえ、経営環境の変化と今後の事業の展開に備えて企業体質の強化を図り、安定的な経営基盤を構築することが企業価値を増大させ、ひいては、株主、顧客、取引先、社員等の各関係者の将来的な利益を確保することに繋がるものであると考えております。

配当方針

株主に対する利益配当に関しましては、経営の最重要課題と位置づけ、収益に対応した配当施策を実施すべきものと考え、配当の継続性および安定性という面に充分留意し、強固な事業基盤と将来の事業拡大に必要な内部留保を確保した上で、40%以上の配当性向（連結）を目標としております。

2019年3月期配当予定

- 期末配当 46円 （連結配当性向 40.7%）

2020年3月期の業績見通しについて

次期（2020年3月期第2四半期および通期）の業績見通しにつきましては、7月1日の経営統合により現時点では予測が困難であるため、未定としておりますが、第2四半期中を目途に予想値の開示が可能となった時点で速やかに開示を行う予定です。

2020年3月期の配当について

次期の配当につきましては、次期の業績見通しの適時開示に併せて公表いたします。

統合新会社の中期計画について

統合新会社の中期計画については、2020年3月期第2四半期決算発表（2019年11月上旬）と合わせて公表する予定です。

第6次中期計画の総括
(2016年度～2018年度)

メンテナンスとエンジニアリングによるソリューション・サービスの提供

受注戦略

顧客のニーズに対応した的確なソリューション・サービスを提供

受注戦略1.
メンテナンス事業の強化
による受注拡大

受注戦略2.
エンジニアリング事業の強化
による受注拡大

受注戦略3.
タンク事業の強化
による受注拡大

経営基盤の強化

ステークホルダーおよび社会からより一層信頼される企業を目指して

受注戦略1.
メンテナンス事業の強化
による受注拡大

豊富なメンテナンス実績と全国規模のネットワークの強みを活かし、
メンテナンス事業の強化を図り、受注拡大を目指す。

主要施策

- ①メンテナンス遂行体制の整備・増強
- ②メンテナンス対応人員の育成・確保
- ③メンテナンス技術力の強化
- ④提案型メンテナンス営業の推進
- ⑤海外におけるメンテナンス事業のノウハウの蓄積

成果目標

- ① 既存顧客におけるメンテナンスシェアの維持・拡大
- ② 未参入・未常駐工場への参入
- ③ 新規常駐事務所の開設

具体的な実施活動

- 全国的な協力会社ネットワークの構築や生産計画への活用、監督者・協力会社の教育の充実など、メンテナンス施工体制を強化。
- 現場作業におけるIT技術やメンテナンスデータベースの活用し、現場管理の効率化を推進。
- 現場作業の機械化を推進し、作業の非熟練化、重作業の軽労化、作業の安全性の向上を図る。

主な成果

- 川崎地区の化学会社への契約保全工事への再参入し、常駐事務所を設置。
- 鹿島地区の一般化学会社から新規に定期修理工事を受注。
- 岩国地区の未参入であった一般化学会社から改造工事および定期修理工事を受注。
- JXTGエネルギー千葉製油所の回転機械の日常メンテナンスに参入。
- 出光興産北海道製油所で定期修理工事を受注。その後、常駐事務所を設置。
- 高圧洗浄技術サービスの一層の充実を図ることを目的に、国内の製油所および化学工場などにおける産業用設備の高圧洗浄サービスを提供する港南通商を子会社化。

受注戦略2. エンジニアリング事業の強化 による受注拡大

エンジニアリング事業の強化を図り、改造改修工事および新規設備工事の受注拡大を目指す。

主要施策

- ① エンジニアリング技術のレベルアップ
- ② エンジニアリングコストの低減
- ③ エンジニアリング対応人材の育成・確保
- ④ エンジニアリング営業力の強化・展開

具体的な実施活動

- 大型の改造・改修工事や新規設備工事に対し、事業所とプロジェクト部が連携した社内ジョイントベンチャーを編成し、収益管理の徹底を図る。
- 医薬分野への参入に向け、ソリューション技術部を中心として技術習得のための活動や顧客に対する営業活動・PR活動を継続中。
- ベトナムでの事業展開を図るため、ベトナム駐在員事務所を設置。

成果目標

- ① FS/FEED業務からの参入による中小規模プラント建設工事の受注拡大
- ② 過去の特殊工事の実績を活かした大型装置における改造・改修工事の受注拡大
- ③ 一般化学を中心とする新設投資案件の受注拡大

主な成果

- 3Dレーザースキャニング技術をプラント改造工事などに積極的に活用。プラント火災復旧工事では、設計精度の向上や全体工期の短縮などで実績。
- ソリューション技術部のFS/FEED業務により、一般化学を中心とした新規顧客に参入し、顧客のエンジニアリング部門を支援しながら、プラント建設工事の受注を獲得。複数の顧客からの打診があり、エンジニアリングパートナーとして当社を位置づけ。
- 一般化学を中心とした新投資案件へ積極的に対応し、成果。

受注戦略3. タンク事業の強化 による受注拡大

タンク事業の強化を図り、石油業界だけでなく、電力などの他の業界分野での受注拡大を目指す。

主要施策

- ① タンク事業遂行体制の整備
- ② タンク事業対応人員の強化
- ③ タンク事業開拓目標の設定

具体的な実施活動

- タンク事業拡大に向け、タンク事業推進委員会を発足するとともに、タンク対応人員の強化を図るため、人員の計画的な配置と中堅社員を対象とした監督者教育を継続中。
- 当社グループを含めたタンク施工会社を開拓中。

成果目標

- ① タンク工事の受注拡大
- ② 未参入工場への新規参入

主な成果

- 中小型タンクのメンテナンスおよび建設工事に多数の実績があり、化学、食品、物流などの一般工業分野の顧客が多い田坂鉄工建設を子会社化。
- 四日市地区の未参入顧客である一般化学会社から初めてのタンク更新工事を受注。
- 東北地区の顧客でのタンク建替工事の施工後、技術を評価され、他の地区のエネルギー関係のタンク工事を継続的に受注。

経営基盤の強化

「無事故・無災害」と「品質トラブル・ゼロ」を永続的目標として引き続き推進するとともに、ステークホルダーおよび社会からより一層信頼される企業を目指す。

主要施策

- ①安全・品質の確保
- ②グループガバナンスの強化
- ③業務改革による生産性の向上

成果目標

- ①無事故・無災害の達成
- ②品質トラブルゼロの達成
- ③グループガバナンスの強化
- ④業務改革による効率化

具体的な実施活動

- 顧客の信頼を継続・獲得するため無事故・無災害に向けた活動を展開。
- 品質トラブルゼロに向け、請負品質向上運動推進チームを発足し、請負品質向上運動（UH向上運動）を展開。
- グループガバナンスの強化とコーポレートガバナンス・コードに基づく取り組みの充実を図る。
- 電子債権システムの導入やグループ会計システムの導入推進など、業務改善を進める。
- 「働き方改革」に向け、「時間外労働削減推進プロジェクト」による長時間労働削減をはじめとした取り組みを実施し、一定の成果。

①【業績計画】

【第6次中期計画の連結業績の最終年度目標と実績】

＜連結＞	(単位：億円)	(単位：億円)
	第6次中期計画 2019年3月期 目標	第6次中期計画 2019年3月期 実績
受注高	950	1,045
完成工事高	950	973
営業利益	66.0	76.8
(率)	6.9%	7.9%
経常利益	67.0	79.3
(率)	7.1%	8.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	40.0	52.2
(率)	4.2%	5.4%

②【経営指標の目標値】

第6次中期計画目標

自己資本当期純利益率（ROE）	9%以上
配当性向（連結）	30%以上

第6次中期計画目標

2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期
12.2%	10.4%	11.4%
40.9%	40.5%	40.7%

③【投資計画】

第6次中期計画目標

フリーキャッシュ増加額 114億円



110 億円

成長戦略投資	<ul style="list-style-type: none"> ・新規分野、新規事業の開拓 ・M&A、技術提携、特許取得 ・研究開発
経営基盤強化	<ul style="list-style-type: none"> ・特殊機械、器具などの新規導入 ・新規事業拠点設置 ・固定資産更新
配当	連結配当性向30%以上の目標
その他	その他

第6次中期計画実績

フリーキャッシュ増加額 157億円



81 億円

成長戦略投資	※田坂鉄工建設、港南通商を子会社化、研究開発投資
経営基盤強化	※大阪事業所の建設、固定資産投資
配当	※2017年5月に連結配当性向を40%以上とする。
その他	

J Xエンジニアリング株式会社との経営統合について

2019年4月17日開催の 臨時株主総会において合併が承認

第1号議案 当社とJ Xエンジニアリング株式会社との吸収合併契約承認の件

第2号議案 定款一部変更の件

第3号議案 取締役（監査等委員である取締役を除く）3名選任の件

第4号議案 監査等委員である取締役2名選任の件

効力発生日：2019年7月1日



RAISE NEXT
上げる・起こす・立てる 次世代

社名には、両社が一体化して新時代のプラントソリューションビジネスを切り開き、さらに高いステージを目指す可能性を追求する未来志向の企業であるという思いが込められています。

ロゴマークは、重なり合う2つの楕円が、メンテナンスとエンジニアリングの専門領域の融合を示し、楕円をつなぐように「R」が浮かび上がります。

ロゴマークの色は、「豊かな未来」「温かみ」「アクティブ」「輝き」などを表しています。

企業理念

産業インフラを支える。豊かな未来を拓く。

- ・安全で安定的なプラントの操業を支え、人、暮らし、環境の未来に貢献します。
- ・メンテナンスとエンジニアリングによって、プラントおよび設備の最適化を実現します。
- ・多様性・自主性を尊重し、従業員・パートナー企業の幸せを追求します。

ビジョン

メンテナンスとエンジニアリングの新時代へ

- ・技術力と現場力を融合し、プラントライフサイクルの様々なステージで総合力を発揮します。
- ・お客様の潜在的な課題を見出し、高品質なサービスとオーダーメイドのソリューションを提供します。
- ・社内外のコミュニケーションをより一層充実させ、メンテナンスとエンジニアリングの新たな価値を創造します。

行動指針

進取果敢

既存の枠組みに捉われず
新しい発想で積極的に
挑戦します。

誠心誠意

お客様によりそい
一つひとつの仕事に
心を込めて取り組みます。

共存共栄

関係する全ての人を尊重し
ステークホルダーとともに
発展します。



経営執行体制

監査等委員会設置会社

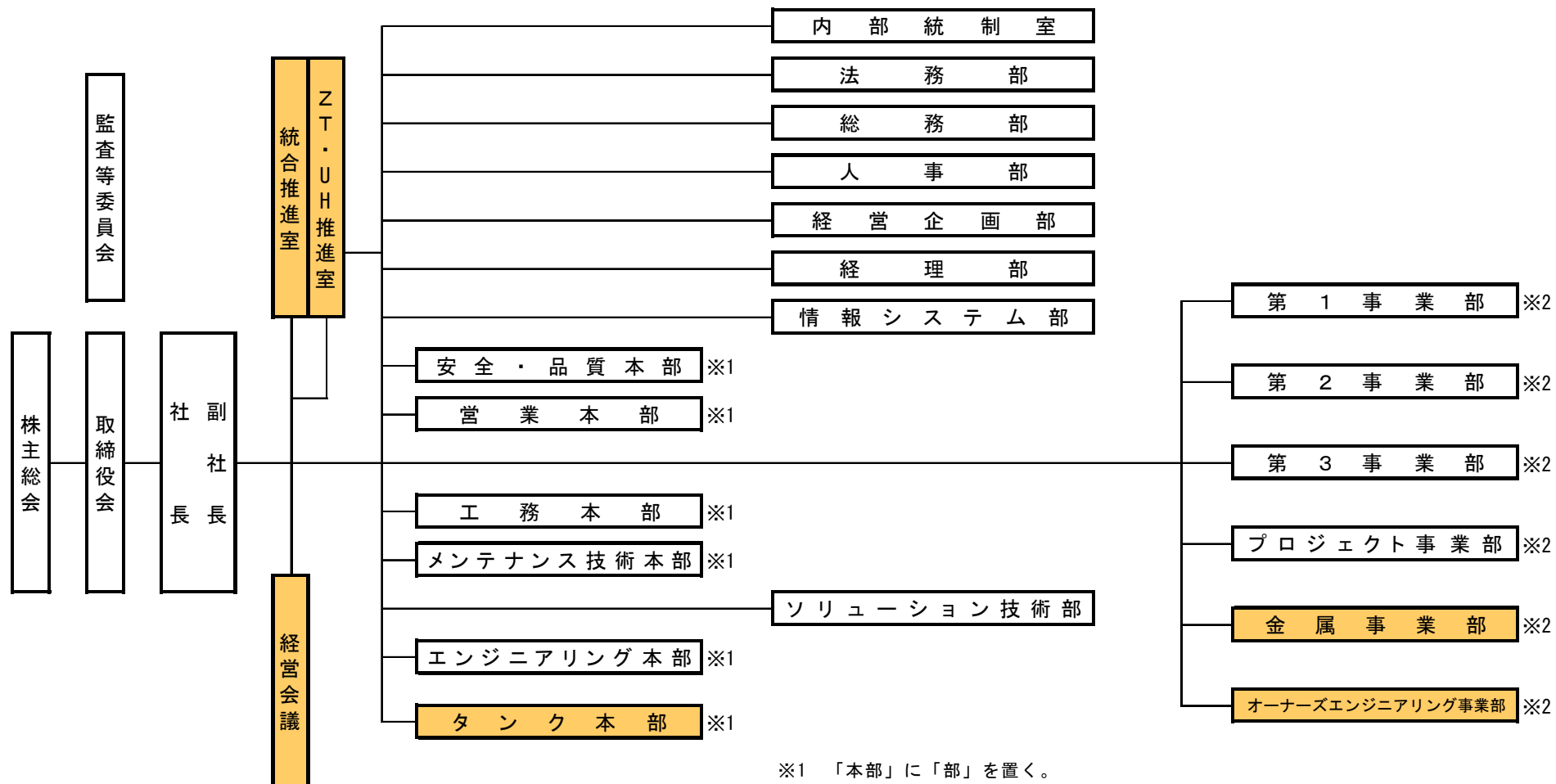
社内取締役	10名 (うち監査等委員1名)
社外取締役 (監査等委員)	5名
合計	15名

※詳細につきましては、添付の開示資料

「新会社「レイズネクスト株式会社」の役員等の委嘱事項および新組織ならびにコーポレートマークの公表に関するお知らせ」
をご参照ください。



2019年7月1日 組織図



※1 「本部」に「部」を置く。
 ※2 「事業部」に「部」または「事業所」を置く。

統合新会社 RAIZNEXTは、

新興プランテックの営業チャンネル、施工管理能力及び協力会社ネットワークと、JXエンジニアリングの技術力とを融合することによる競争力の向上等を通じて、事業規模の拡大を図り、

統合によるシナジーとして、2025年3月までの累計で、売上高200億円以上、経常利益20億円以上の統合効果の実現を目指す。

売上高 **200億円以上**

経常利益 **20億円以上**

統合新会社の中期計画については、2019年11月上旬の2020年3月期第2四半期決算発表と合わせて公表する予定。

この資料には、2019年5月10日現在の将来に関する見通し及び計画に基づく予測が含まれています。
経済情勢の変動などに伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があります。

【お問い合わせ先】

新興プランテック株式会社

〒235-0017 横浜市磯子区新磯子町27番地5

経営企画部 企画グループ

TEL 045-758-1953 / FAX 045-758-1999

E-MAIL : ir-info@s-plantech.co.jp

URL : <http://www.s-plantech.co.jp>